

■タマネギのまきどきと上手な苗作り

タマネギはあまり早くまき過ぎると冬に入る前に大きく育ち過ぎ、低温に感応してとう立ちする 경우가多く、失敗しがちです。適正なまきどきは早生種 9月上旬、中生種 9月15日前後、晩生種 9月20日ごろです。

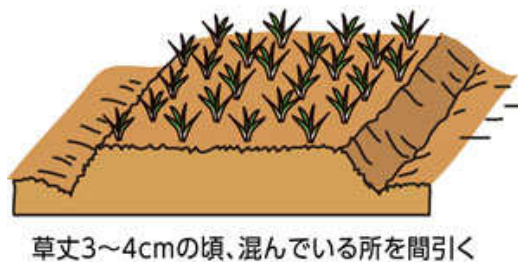
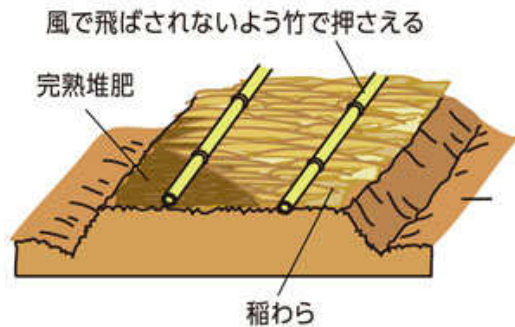
タマネギは土壌の酸性に弱い(最適 pHは 6.3~7.8)ので、苗床の予定地は早めに石灰を施し、20cm ぐらいの深さによく耕しておきます。

苗床は幅 80~100cm、高さ 15~20cm(低温地では幅を狭く、高さを高くする)とし、あらかじめ化成肥料を全面にまき、深さ 15cm ぐらいに耕し込んでおきます。

種まきは床面をきれいにならして、3・3 平方m 当たり 40ml 内外の種を均一にばらまきます。その上に草木灰を種が見えなくなる程度に掛け、さらにそれが見えなくなる程度にふるいで土を均一に掛け、板切れなどで軽く押し付け、鎮圧します。その後細かく砕いた完熟堆肥、またはもみ殻で土が見えなくなるぐらいに覆います。そしてたっぷり灌水(かんすい)し、稲わらで全面を覆い、強い降雨や、強日光による乾燥を防ぎます。

通常 6~7 日で発芽しますから、全体に発芽し 1~2cm に伸びたら、被覆していた稲わらは取り除きます。乾いていたら全面にたっぷりジョウロで灌水し、そろった発芽を促します。

草丈が 3~4cm に伸びた頃、密に生えたら間引き、1.5cm ぐらいの間隔にします。間引



きの後、少量の化成肥料を追肥し、ふるいで土を掛けて土入れします。

苗が7～8cmの丈になった頃、前と同様に第2回の追肥をします。

この頃は秋雨が降り続くことが多く、葉の一部がぼんやりと黄化するべと病が発生しやすいです。この苗床で発生を許すと春先になって本畑で多発しやすいので、早いうちに適応薬剤を、展着剤を加えて散布し、完全に防除しておきます。

11月上～中旬になり苗の大きさが草丈20cm内外、太さが5～6mmぐらいになったら畑に定植します。苗取りは、床が乾いていたら十分灌水し、根をできるだけ切らないよう、大きい株からできるだけそろえて引き抜きます。こうすれば本畑での早い活着は請け合いです。

※関東南部以西の平たん地を基準に記事を作成しています。

板木技術士事務所 ● 板木利隆